

(法第 28 条第 1 項関係「前事業年度の事業報告書」)

令和 2 年度事業報告書

令和 2 年 4 月 1 日から令和 3 年 3 月 31 日まで

特定非営利活動法人 水辺に遊ぶ会

はじめに

2020 年 10 月 14 日に当会にとっての支柱であった足利由紀子理事長が逝去し、今後運営の継続について危ぶまれる事態となりました。当会は、21 年の活動によって既に単なる任意団体の域を超え、社会の公器としての役割を担っており、また存続は故・足利理事長の願いでもあることから運営を続けることと致しました。

1 事業実施の実績

① 自然に関する理解を深めるための啓発活動の推進

- ・ 上半期は、前期第 4 四半期から始まった COVID-19（新型コロナウイルス感染症）パンデミックの影響をまともに受けた形で観察会などの行事が軒並み中止となった。①の事業に関係した中止行事は、県立工科短期大学校講義・ビーチクリーン、ベッコウトンボ観察会、春の干潟観察会に加え、例年中津市内の小学校で行われている授業、観察会であった。
- ・ 上半期は、行事の中止が相次いだが、会として 7 月 1 日を「中津干潟の日」として制定した。これに伴うイベントとして、東浜のひがたらぼから大新田海岸までゴミ拾いをしながら歩くプチウォークを開催。同時に小幡記念図書館でポスター・写真展を開いた。コロナ対策の苦肉の策であったが、マスコミに注目され、結果としてこの活動が「日韓国際環境賞」や「地域再生大賞優秀賞」につながる事となった。前者は、プチウォークを取材に来られた毎日新聞の記者の推薦、後者は、同じく取材された大分合同新聞の記者による推薦のおかげであった。
- ・ 今期初めて県の子ども探険団の助成金を申請し受理されたが、屋内行事の「子どもアカデミア」が対象であったため、感染防止の観点から辞退した。従って子どもアカデミアも中止となった。
- ・ 7 月ごろから COVID-19 への対応について、行政関係などからガイドラインが示されるようになり、屋外での行事に関しては開催の見通しがついた。このため、アカテガニ観察会、山国川おサカナ観察会、秋の干潟観察会、ズグロカモメと冬鳥観察会などは例年通り開催できた。3 月には、3 年ぶりとなる海苔すき体験も開催することができた。開催できた行事については参加者数もおおむね例年通りとなった。
- ・ 今回で 4 回目となる「中津干潟アカデミア・研究発表会」は屋内行事であるため、観

客を入れての開催はできなかった。代わりに YouTube を利用したネット中継を試みたが画像、音声ともに課題を残す結果となった。内容としては、パネルディスカッション形式で、それぞれの専門の立場から人間と海岸の関係について話した。大学生も研究発表を行ったが、昨年のような市民と対話をしながらのポスターセッションと異なり若干盛り上がり欠けるようにも感じられた。

- ・ 例年テレビ・ラジオ・新聞などへの取材協力を行っているが、今期も主なもので 9 回（NOASFM、朝日新聞、大分合同新聞、毎日新聞等）程の取材を受け、広報につながる成果を残した。NOASFM の地球温暖化問題についての取材依頼は新しい試みであった。

② 調査研究活動

- ・ 前期に続き、中津市より干潟及び野依新池の調査委託があった。干潟の調査では、アライグマ定点撮影調査を行い秋口によく見られることが分かってきた。海苔漁場の塩分濃度調査も継続し、それぞれ対策につなげたい。
- ・ カブトガニ関連の調査は、例年同様に産卵、幼生の個体数、混獲された成体などについて調べた。調査では、大きな変化は認められなかった。
- ・ シギ・チドリの調査は、大阪南港ウェットランドグループをはじめ、協力者のおかげで、相対的にも中津干潟の重要性がますます高まってきたことが示された。来期にこれまでのレポートを冊子にまとめる予定にしている。
- ・ 3 年目となる日本文理大学と干潟学習が児童の情操に与える効果について共同研究を続けているがコロナウイルス問題などもあり今期はまとめることができなかった。今後さらにデータの収集を重ね科学的な根拠を固めていきたい。
- ・ 野依新池の調査では、トンボ類を中心に植物、水生生物などについて行った。水深ロガーも設置したことから、発生するとの相関についても今後調べていきたい。
- ・ 法政大学のシャミック氏が行っている干潟に暮らす人と自然の関係について研究が、来年度論文にまとめられることとなった。

③ 海岸清掃ほか環境美化や廃棄物問題に関する啓発活動

- ・ 海岸清掃、松林景観再生活動についても、新型コロナウイルスの影響から 5 月は中止となった。9 月と 12 月についてはガイドラインなども提示され何とか開催することができたが、参加者数は少なめであった。3 月の三百間ビーチクリーンは、2 年越しということもあり開催したかったが雨天により直前に中止することとなった。
- ・ 例年、清掃と松林に取り組んでいる県立工科短大は、コロナの影響で中止となった。下半期には、小楠小学校がビーチクリーンと松林整備を行った。

④ ブルーツーリズムなどの地域振興を推進する活動

- ・3月に2017年以来となる海苔すき体験を実施した。毎回好評をいただいております。今後も継続して続けられるよう努力したい。
- ・アカニシ染めのワークショップについては5月に京都からのツアーが来訪する予定であったが、コロナの影響により中止となった。

⑤ 自然環境に関する情報の収集・蓄積・発信

- ・ガタガタ通信は予定通り年4回発行した。これまで故・足利理事長が編集を一手にしていたことから、手書きのイラストと相まって暖か味のあるもので好評であったが、同様のイラストを書けるスタッフが不在であることから、一般の広報のスタイルで編集しているが、できればイラストレーターを確保したい。
- ・HPのリニューアルの効果が確実に出ている。アクセス数は前年度21,900件だったが、今期は50,000件を越えた。マスコミからの問い合わせもHPからという事例も出てきた。HPのシステムパッケージの問題で一部不具合が生じている。今後も地道に情報提供を行うと同時に、内容の再検討も行いながらステップアップを図りたい。

⑥ 民間および公共団体の環境に関する事業に対する支援・提言など

- ・舞手川河口で実施している養浜の試みが6年になるがカブトガニの産卵場所の確保と海岸の保全、河口閉塞の防止という面で効果を上げている。県土木としては、この事業を継続するためには県民への理解が必要とのことであった。会としては、全国に先駆けて行われたセットバック護岸の成立や維持、調整の過程を目に見える形にしていく必要があると考える。土木系高校の教科書に掲載されるという話もあり大切にしていきたい。
- ・野依新池については予定から2年ほど遅れて「おおいたの重要な自然共生地域」にしていされた。遅れた原因は一昨年、池南部の土手が大規模に伐採されたことが影響したと考えられるが、無事指定されることとなった。今後は、さらに保全に結びつく「県の天然記念物」の指定を目指して活動したいと考える。

⑦ 持続可能な社会を追究するためのその他の活動

- ・ここ数年組織基盤強化及び持続的な経営の確立が急務であるとしていたが、足利理事長の逝去により、実際に多くの問題が露呈している。ただ、多くのスタッフの献身的な協力により何とか例年通りの事業展開が行われている。今後も管理業務及び事業実施業務の分散化、組織の高齢化、関係者のスキル不足、若手の担い手不足など課題を一つ一つ解決していきたい。
- ・上記の問題に対応して、事業マニュアルの作成を続けている。主な事業及び管理業務を皮切りに、業務内容のパッケージ化を目指したい。

- ・ 当初予算では 170 万円余りの単年度赤字を予定していたが、「日韓国際環境賞」の受賞に伴う賞金、理事長逝去に伴う寄付金の増額などにより同額の繰越金を残せる状況となった。これは、あくまで特別の事態であり、今後の堅実な経営を心がけたい。
- ・ 経営ガバナンスは、従業員を雇いながら永続的に運営していく上で必須のものであり、理事、正会員がその意義を深く理解しておく必要がある。同時に、資金調達、文書管理、監査体制の確立などについても考慮が必要である。
- ・ 「ひがたらぼ」が設置されて 5 年が過ぎたが、各所に老朽化が目立つようになってきた。しっかりとした建造物に更新するために、土地の確保、資金調達など課題は多いが、子どもたちの学習支援や社会教育、研究の拠点を維持発展していくため一丸となって取り組んでいきたい。

⑧その他

- ・ 今期は、資金やガバナンスなどの観点から厳しい経営が想定されていた。理事長の逝去という事態を迎え、理事、正会員それぞれに思い、考えるところが多かったと思われるが、個々人それぞれにできることを精一杯お手伝いいただいた事で何とか年度末を迎えることができた。経営的には、潤沢な資金が集まったことで 1～2 年は雇用を維持したまま経営が成り立つ状況となった。
- ・ 近年表彰をいただく機会が多くなっているが、今季は「日韓国際環境賞」「大分合同新聞文化賞」「地域再生大賞優秀賞」などの受賞が決まり、「日本水大賞審査部会特別賞」の内定もいただいている。これも、会員をはじめ多くのボランティアなど会を支えて下さっている方々の賜と喜びを分かち合いたいと思う。
- ・ 来期には「地球環境基金」の助成金の運用を予定しているが、行政への積極的な働きかけや市民全体の意識の醸成、情報の発信など、本来の目的である「環境保全」についても今後どのような展開を行うかこれまで以上に真剣に考える必要がある。

(法第28条第1項関係「前事業年度の事業報告書」)

令和2年度事業報告書

令和2年4月1日から令和3年3月31日まで

特定非営利活動法人 水辺に遊ぶ会

2 事業の実施に関する事項

特定非営利活動に係わる事業

定款の事業名							
事業内容	実施月日	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲	受益対象者の人数	支出額(円)	
① 自然に関する理解を深めるための啓発活動の推進							
自然観察会	ベッコウトンボ観察会	中止	野依地区		市民他		
	春の干潟観察会	中止	大新田		市民他		
	アカテガニ観察会	8/1	山国川	10名	市民他	46名	
	山国川おサカナ観察会	8/2	大新田	11名	市民他	31名	
	秋の干潟観察会	10/17	大新田	11名	市民他	142名	
	スグクモと冬鳥観察会	12/6	東浜	12名	市民他	22名	
	海苔すき体験	3/14	角木	9	市民他	32名	
その他行事	海の絵コンテスト	夏休み	中津市内	4名	児童	1,344名	
	ひがたかふえ	中止	ひがたらぼ		市民他		
保育園での環境学習指導	1回	中津市	4名	園児	20名	2,793,321	
小学校での環境学習指導	21回	中津市・外	28名	児童	1,322名		
中学校での環境学習指導	1回	中津市外	1名	学生	30名		
短大・大学の環境学習講師	中止	中津市・外		学生			
社会教育の場などでの講師	2回	中津市・外	2名	児童・市民他	15名		
企業・その他団体他での講師	5回	中津市・外	18名	児童・市民他	86名		
中津干潟NETアカデミア	12/20	小楠コミュニティ	40名	児童・市民他	不特定		
マスコミ対応(主なもの)	9回	中津市	9名	市民他	不特定		
② 調査研究活動							
生物調査(カブトガニ)	19回	中津干潟	140名				1,129,722
生物調査(シギチドリ類他)	20回	中津干潟	36名	学生・市民他	88名		
生物調査(ベッコウトンボ・生息地)	22回	野依地区他	20名	学生・市民他	3名		
その他(アライグマ・漁場塩分)	25回	中津干潟	27名				
他機関との協働(水産大・文理大・野鳥の会 法政大学)	12回	中津干潟他	16名	不特定	22名		
③ 海岸清掃ほか環境美化や廃棄物問題に関する啓発活動							
ビーチクリーン (漂着物調査)	大新田海岸	5/31中止	大新田		市民他		
		9/13・12/6	大新田	23名	市民他	274名	
	三百間海岸	3/21中止	三百間		市民他		

	漂着物調査	1回	大新田	2名			211,991
	学生への指導	1回	大新田	3名	学生	77名	
児童向海ごみ学習用冊子編集		1月	大分県内	1名	児童・県民他	不特定	
松林景観再生	一般参加作業	5/31中止	大新田		市民他		
	一般参加作業	9/13・12/6	大新田	2名	市民他	70名	
	専門作業	19回	大新田	12名	学生・市民他	4名	
	学生への指導	1回	大新田	3名	児童・学生他	77名	
④ ブルーツーリズムなどの地域振興を推進する活動							
							0
⑤ 自然環境に関する情報の収集・蓄積・発信							
会報誌発行		4回	国内	4名	国内	1500名	368,751
ホームページ維持管理		通年	国内	1名	不特定	50,473アクセス	
生物データベース管理		通年	国内	2名	不特定		
環境イベント出展		中止	今津		不特定		
⑥ 民間および公共団体の環境に関する事業に対する支援・提言など							
野依新池ボウリング調査助言		6/26・8/18	らぼ・新池	3名	行政・団体	6名	4,232
アンケート協力(主なもの)		4回	ひがたらぼ	1名	行政・団体		
河川協力団体		通年	ひがたらぼ	2名	行政・市民		
野依新池ベッコウトンボ保全作業		11/28	野依地区	9名	市民他	27名	
団体ヒアリング受入		4回	ひがたらぼ	3名	団体	8名	
五十石川連携ほか		通年	中津市内	2名	市民他		
海岸事業に関する検討		通年	中津市内	4名	行政・市民		
ベッコウトンボ保全に関する検討		通年	中津市内	2名	行政・市民		
⑦ 持続可能な社会を追究するためのその他の活動							
「ひがたらぼ」運営		通年	ひがたらぼ	5名	不特定		966,122
NPO基盤整備		通年	ひがたらぼ	5名	不特定		
商品(カブトガニサブレ・海苔他)販売		通年	中津市・外	3名	不特定		
ガタガタ広場水道設備設置		通年	大新田	1名	不特定		

活動計算書

令和 2年 4月 1日から令和 3年 3月31日まで

特定非営利活動法人水辺に遊ぶ会
(単位:円)

科 目	金 額	
I 経常収益		
1. 受取会費		
正会員受取会費	24,000	
賛助会員受取会費	171,000	
特別会費	410,000	605,000
2. 受取寄附金		
受取寄附金	2,316,670	2,316,670
3. 受取助成金等		
受取補助金・助成金	1,156,228	1,156,228
4. 事業収益		
①自然に関する理解を深めるための啓発活動	751,242	
②調査研究活動	1,748,000	
③海岸清掃ほか環境美化や廃棄物問題に関する活動	60,000	
④ブルーツーリズムなどの地域振興を推進する活動	0	
⑤自然環境に関する情報の収集・蓄積・発信	0	
⑥民間及び公共団体の環境に関する事業に対する支援・提言など	15,800	
⑦持続可能な社会を追究するためのその他の事業	386,505	2,961,547
5. その他収益		
受取利息	15	
雑収入	1,088,983	1,088,998
経常収益計		8,128,443
II 経常費用		
1. 事業費		
(1) 人件費		
給料手当	2,052,000	
事務局経費	8,000	
雑給	0	
法定福利費	341,440	
福利厚生費	81,296	
人件費計		2,482,736
(2) その他経費		
業務委託費	549,140	
諸謝金	71,000	
印刷製本費	358,250	
旅費交通費	354,312	
通信運搬費	169,526	
消耗品費	447,212	
修繕費	0	
諸会費	10,000	
会議費	0	
水道光熱費	136,401	
減価償却費	0	
車両費	4,100	
賃借料	291,300	
保険料	36,943	

交際費	0		
図書費	10,256		
支払手数料	21,449		
雑費	124,355		
渉外費	7,400		
広告宣伝費	61,980		
売上原価	337,780		
租税公課	0		
その他経費計		2,991,404	
事業費計		5,474,140	
2. 管理費			
(1) 人件費			
給料手当	228,000		
事務局経費	0		
雑給	0		
法定福利費	37,937		
福利厚生費	36,536		
人件費計		302,473	
(2) その他費用			
業務委託費			
諸謝金			
印刷製本費	15,583		
旅費交通費	34,561		
通信運搬費	116,065		
消耗品費	86,699		
修繕費			
諸会費	10,987		
会議費			
水道光熱費	15,156		
減価償却費			
車両費	2,000		
賃借料	12,120		
保険料	22,210		
交際費	0		
図書費	1,650		
支払手数料	550		
雑費	117,940		
渉外費	119,810		
広告宣伝費	0		
租税公課	2,400		
その他経費計		557,731	
管理費計		860,204	
経常費用計			6,334,344
当期経常増減額			1,794,099
III 経常外収益			
過年度損益修正益	40,516		
経常外収益計		40,516	
IV 経常外費用			
過年度損益修正損	0		
経常外費用計		0	
税引き前当期正味財産増減額			1,834,615
法人税、住民税及び事業税			71,000
当期正味財産増減額			1,763,615
前期繰越正味財産額			2,841,231
次期繰越正味財産額			4,604,846

(法第28条第1項関係様式)

令和2年度「特定非営利活動に係る事業」会計貸借対照表
(報告式)

令和 3年 3月31日現在

特定非営利活動法人水辺に遊ぶ会

科目・摘要	金額 (単位:円)		
(貸金収支の部)			
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	3,179,535		
未収金	1,760,258		
前払金	247,220		
棚卸資産	55,407		
その他			
(流動資産合計)		5,242,420	
2 固定資産			
土地	0		
建物	0		
車両	0		
備品	0		
その他	0		
(固定資産合計)		0	
(資産合計)			5,242,420
II 負債の部			
1 流動負債			
短期借入金	0		
未払金	365,194		
前受金	160,500		
預り金	40,880		
法人税等未払金	71,000		
(流動負債合計)		637,574	
2 固定負債			
長期借入金			
(固定負債合計)		0	
(負債合計)			637,574
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		2,841,231	
当期正味財産増加額(減少額)		1,763,615	
(正味財産合計)			4,604,846
(負債及び正味財産合計)			5,242,420

(法第28条第1項関係様式)

令和2年度財産目録

(法人一括)

令和 3年 3月31日現在

特定非営利活動法人水辺に遊ぶ会

科目・摘要	金額 (単位:円)		
(貸金収支の部)			
I 資産の部			
1 流動資産			
現金	現金手許有高	168,608	
普通預金	大分銀行1	638,853	
	大分銀行2	985	
	ろうきん	2,013,506	
郵便貯金		196,759	
郵便振替		133,802	
漁業協同組合		27,022	
未収金		1,760,258	
前払金		247,220	
棚卸資産		55,407	
その他		0	
(流動資産合計)			5,242,420
2 固定資産			
土地		0	
建物		0	
車両		0	
備品		0	
その他		0	
(固定資産合計)			0
(資産合計)			5,242,420
II 負債の部			
1 流動負債			
短期借入金		0	
未払金		365,194	
前受金		160,500	
預り金		40,880	
法人税等未払金		71,000	
未払消費税		0	
(流動負債合計)			637,574
2 固定負債			
長期借入金		0	
(固定負債合計)			0
(負債合計)			637,574
正味財産			4,604,846

財務諸表の注記

特定非営利活動法人水辺に遊ぶ会

1. 重要な会計方針

財務諸表の作成は、NPO法人会計基準(2010年7月20日 NPO法人会計基準協議会)によっています。同基準では、特定非営利活動促進法第28条第1項の収支計算書を活動計算書と呼んでいます。

- (1) 固定資産の減価償却の方法
該当なし
- (2) 引当金の計上基準
該当なし
- (3) 施設の提供等の物的サービスを受けた場合の会計処理
該当なし
- (4) ボランティアによる役務の提供
ボランティアによる役務の提供は、4. のとおりですが活動計算書には計上しませんでした。
- (5) 消費税等の会計処理
該当なし

2. 事業費の内訳

事業費の内訳は別表のとおりです

3. 施設の提供等の物的サービスの受入の内訳

特に該当なし

4. 活動の原価の算定にあたって必要なボランティアによる役務の提供の内訳

(単位:円)

内 容	金 額	算定方法
環境活動作業 630名、平均2時間、計1,260時間	997,920円	単価は大分県の最低賃金によって算定 (@792円)

5. 使途等が制約された寄附等の内訳

(単位:円)

内 容	前期繰越額	当期受入額	当期減少額	次期繰越額	備 考
大分県森と海をつなぐ環境保全推進事業	0	110,258	114,404	-4,146	海岸清掃
北部九州河川利用協会 河川利用推進事業		333,160	333,160	0	啓発・教育
SAVE JAPAN PROJECT	0	712,810	712,810	0	啓発・教育

6. 固定資産の増減内訳

7. 借入金が増減内訳

特に該当なし

8. 役員及びその近親者との取引の内容

特に該当なし

9. その他特定非営利活動法人の資産、負債及び正味財産の状態並びに正味財産の増減の状況を明らかにするために必要な事項

- ・現物寄附の評価方法
特に該当なし
- ・事業費と管理費の按分方法
従業員給料手当及び水道光熱費は事業毎の総支出額比(従業員人件費を除く)によって按分した。
- ・重要な後発事象
特に該当なし
- ・その他の事業に係る資産の状況
特に該当なし

(別表) 事業別損益の内訳
事業費損益の内訳は以下のとおりです

科目	特定非営利活動に係る事業							事業部門 計	管理部門	合計
	自然に関する研 究を深めるため の啓発活動	調査研究活動	病態解明ほか 環境美化や強 い薬物問題に関 する活動	ブルーツーリス ムなどの地域振 興を推進する活 動	自然探検に関 する情報収集 集・発信・発信	民間及び公営 団体の機関に 関する事業に著 する支援・報告 など	特約可能な社会 を追求するため のその他の事業			
I 経費収支										
1. 受取金								0	605,000	605,000
2. 受取寄付金	1,045,970							0	2,316,670	2,316,670
3. 受取助成金等	751,242	1,748,000	110,298					1,156,228	1,156,228	1,156,228
4. 事業収益	0	1,000	0	0	0	15,800	386,505	2,961,547	2,961,547	2,961,547
5. その他収益	1,797,212	1,749,000	170,298	0	0	12,046	386,505	13,046	1,075,952	1,088,998
経費収益計								4,130,821	3,997,622	8,128,443
II 経費費用										
(1) 人件費	1,001,784	441,663	83,172	0	144,675	1,660	379,046	2,052,000	223,000	2,275,000
給料手当	4,000							8,000		8,000
業務委託費	166,690	73,430	13,839	0	24,073	276	63,071	344,489	37,937	379,376
雑費	38,712	31,744	9,825	0	1,016			81,297	36,536	117,833
福利厚生費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ボランティア評価費用	1,211,186	550,897	106,836	0	168,748	2,952	442,117	2,482,736	302,473	2,785,209
(2) その他経費	280,000	229,140	40,000	0				549,140		549,140
諸謝金	70,000	1,000						71,000		71,000
印刷製本費	358,250							358,250	15,583	373,833
旅費交通費	92,200	257,550			3,382	1,170		354,312	34,561	388,873
通信運送費	27,240	950	140		141,196			169,526	116,065	285,591
消耗品費	326,218	60,232	20,034		38,798		1,930	447,212	86,699	533,911
修繕費								0		0
雑会費		10,000						10,000	10,987	20,987
会議費	66,591	29,358	5,529		9,617	111	25,195	136,401	15,156	151,557
水道光熱費								0		0
減価償却費								0		0
車両費	256,300		4,100					4,100	2,000	6,100
賃借料	16,943							291,300	12,120	303,420
保険料								36,943	22,210	59,153
交際費								0	0	0
図書費	3,256				7,000			10,256	1,650	11,906
支払手数料	20,102	955	152					21,449	550	21,999
雑費	255							124,100	117,940	242,295
法外費	2,200		5,200					7,400	119,810	127,210
広告宣伝費	61,980							61,980		61,980
売上原価								337,780	337,780	337,780
租税公課								0	2,400	2,400
その他経費計	1,582,135	578,825	105,155	0	200,003	1,281	524,005	2,991,404	557,731	3,549,135
経費費用計	2,793,321	1,129,722	211,991	0	368,751	4,233	966,122	5,474,140	860,204	6,334,344
III 経費外収支										
経費外収支										
経費外収支計										
IV 経費外費用										
経費外費用										
経費外費用計										
法人税、住民税等										
損益計算	-996,109	619,278	-41,733	0	-368,751	23,613	-579,617	1,343,319	3,137,418	1,794,099
経常外収支	-996,109	619,278	-41,733	0	-368,751	23,613	-579,617	1,343,319	3,137,418	1,834,615
税引き後差額	-996,109	619,278	-41,733	0	-368,751	23,613	-579,617	1,343,319	3,066,418	1,763,615